

目次	頁
序	
凡例	
原始・古代の風景	1
第一章 赤土に刻まれた文化	9
第一節 旧石器文化の自然環境	10
第四紀と人類の誕生／第四紀の列島の気候変動／第四紀の列島の植物相／第四紀の列島の動物相／ 氷期の海水面低下	
第二節 旧石器文化人の足跡	18
列島の後期旧石器文化の変遷／県内の地形と遺跡の立地／県内の旧石器文化／旧石器文化の地域性／ 旧石器文化の道具／石器石材／旧石器文化の人びとの暮らし／ヒトはどこから来たか／ コラム 人類の誕生と県内の化石人骨	
第二章 縄文文化の展開	39
第一節 縄文文化と自然環境	40
氷河時代の終わりと温暖化／縄文海進による地形の変化／生活の舞台と動植物相／ 縄文の小海退と再海進	
第二節 縄文人の生活と貝塚	46
東海貝塚群の形成／貝塚の重要性 1 生活内容／貝塚の重要性 2 日本人種論／ 貝塚の重要性 3 貝塚埋葬の意義／木の実の貯蔵穴／コラム アンギンから米俵まで	
第三節 縄文人の祈りと風習	54
再生の祈り／色々な埋葬形態の示すもの／抜歯の風習と又状研歯／人骨の副葬品／ 土器・石器からみた祈り	
第四節 地域交流の展開	60
県内の縄文土器／縄文文化の生産用具／祭祀用具の伝播	
第三章 農耕と弥生文化	71
第一節 弥生文化の舞台	72
日本列島と弥生文化／時期区分／弥生遺跡の立地と自然環境／弥生土器の変遷	
第二節 弥生文化の成立と展開	82
遠賀川式土器と条痕文土器／東西日本接触地帯の土器／溝で囲む集落と墓域の形成／ 典型的な環濠集落の村／中期の土器の地域色／石器の生産と流通／都会の地中に眠る大規模集落／ 三河の中期 大規模集落／コラム 列島最大級の弥生集落 朝日遺跡	
第三節 弥生人の暮らしと祈り	98
弥生人の生活基盤／弥生人の食卓に上がった食べ物／ムラ・イエ・墓／弥生人のもの作り／ 弥生土器の製作とその造形美／弥生社会の形成と発展／弥生人の祈りと精神的な活動／銅鐸の祭り／ 記録に残された銅鐸／銅鐸の埋納／破壊された銅鐸／モノの移動 人の交流	
第四節 ムラからクニへ	136
新しい土器と社会の変化／変化するムラの姿／中期の終わり頃の墓／謎の円窓付土器／ 後期から終末期の土器とムラ／パレススタイル土器／墓の革新／金属器の普及／最後の環濠集落／ 終末期の動向	
第四章 古墳文化の展開とヤマト王権	157
第一節 墳丘墓から古墳へ	158
古墳文化の風土と自然環境／古墳文化の概要と時期区分／東アジアの政情と古墳の発生／ 墳丘墓から古墳へ／前期古墳にみる二つの文化相／ヤマト王権と三角縁神獣鏡／ 県内と美濃の三角縁神獣鏡／三角縁神獣鏡の分布と交通路／埴輪にみるヤマト王権の姿／ 東之宮古墳の被葬者の姿／白山藪古墳の被葬者の姿／社会と労働／低地のムラと人びとの暮らし／ 鹿乘川流域遺跡群の性格／海辺に営まれたムラの暮らし／再検討を要する前期古墳	
第二節 古墳の巨大化と尾張氏	188
中期のはじまり 洪水層の堆積／古代瀬波 最後の王墓／三河湾を望む海人の巨大古墳／ 三河最大規模の前方後円墳／尾張連登場と断夫山古墳／帆立貝形古墳と鈴鏡／ 馬具の出現と武装の武人／土器の形とその変化／鳥ツマミのデザイン／ カマドの登場とその担い手たち／庄内川下流域と低地開発	
第三節 横穴式石室墳の展開	204
前方後円墳の終焉／古墳築造の拡大／横穴式石室の展開／終末期古墳と古代寺院の創建	

第四節 人びとの生活と交流	216
文化交流の軌跡／前期の集落と首長／中期の集落と物流拠点／後・終末期の集落と多様性／ 集落と墓域／集落内の祭祀／集落内の手工業生産／農地の開発／古墳時代の生産と流通／ 須恵器の生産と流通／活発化した製塩／埴輪にみる多様な流通／渡来人の足跡	
第五章 政治社会の成立と尾張・三河	245
第一節 国造制下の尾張・三河	246
国造と国造制／県主と屯倉／部民・ウジ・カバネ／尾張の県主と屯倉／県内の三国造／尾張国造／ 参河国造／穂国造／尾張氏の性格／尾張氏の発祥の地／律令制下の国造／尾張宿祢小倉	
第二節 評制と五十戸制	284
「天下立評」と尾張・三河の評／部民制から公民制へ／五十戸制の成立	
第三節 壬申の乱と令制国の成立	300
壬申の乱と尾張／軍事的拠点 湯沐邑／寺院造営の広がり／天武朝における国境画定／愛知の由来／ 国名表記の成立と国印／国府の形成／持統太上天皇の三河国行幸／引馬野の歌群／ 尾張・三河の万葉歌／コラム 尾張連浜主	
第六章 古代国家の成立と尾張・三河	333
第一節 尾張・三河の郡と里（郷）	334
大宝律令の完成 律令国家の成立／国と国司／郡と里（郷）／尾張・三河の郡司と豪族／ 籍帳支配と尾張・三河の人びと／尾張・三河の人びとの負担／律令制下の土地政策／寺社領の広がり／ 出羽国への移住と秋田城木簡／中男作物・贄と労役負担／尾張・三河の人びとの暮らし／ 律令制の展開と須恵器生産／尾張・三河の須恵器生産／尾北寮の展開とその背景／ 「五十戸」銘刻書須恵器／須恵器生産体制の再編成／原始灰釉陶器の登場／ 新しい焼き物の焼造を目指して／中央への製品の流れ	
第二節 国衙財政と尾張国正税帳	374
国衙財政の在り方／正税帳と正倉院文書／天平二年尾張国正税帳／正税帳にみる志摩国への支出／ 天平六年尾張国正税帳／尾張国正税帳にみえる経費一覧／尾張国の調木簡／三河国の調木簡	
第三節 三河湾海部の世界	398
贄木簡の出現／贄木簡の記載／郷と嶋との並存／篠嶋・析嶋の隔月貢進説／月料の贄物／ 特例としての三島木簡／幡頭神社の社伝から／三河湾三島の古墳／コラム 小野道風	
第四節 人びとと災害	424
『日本書紀』と地震／県内の古代地震／風水害について／旱と疫病／蝗の被害／倒木の起立	
第七章 変貌する古代社会と尾張・三河	441
第一節 所領の広がりとは地方社会	442
軍事・造作と尾張・三河／伊勢神宮・斎宮への両国の負担／院宮王臣家領の広がり／広野河事件	
第二節 国衙行政と民衆	454
延喜式諸条にみる尾張・三河／その他の諸条にみる尾張・三河／在庁官人と任用国司／ 文書行政の一面 国雑掌／平安期の郡司の諸相／正税から土地税へ／臨時賦課と官人給分／ 都鄙交通の急増／荒廃田の拡大 不堪佃田奏／荘園の成立 醍醐寺の立荘／ 焼亡内裏の造営 臨時雑役の前提	
第三節 変貌する尾張・三河	480
郡の新設・分置／生道塩／尾張・三河の古代交通／国境の策定と律令駅制／伊場遺跡の過所木簡／ 奈良・平安前期の交通多様化／交通路の整備と貢納体制／平安後期の交通体制／ 承平・天慶の乱 国司襲撃事件／天竺人の漂流／瓷器生産の様相／文献にみる瓷器の名称／ 瓷器の流通／歌枕の世界／尾張の歌枕／三河の歌枕／コラム 古代三河国と犬頭系	
第八章 「尾張国解文」と荘園・公領の成立	521
第一節 「尾張国郡司百姓等解文」とその背景	522
尾張国郡司百姓等解文の概要／尾張国郡司百姓等解文の背景／土地制度の変容 荘園と公領	
第二節 「尾張国郡司百姓等解文」が伝えるもの	530
正税利稲の地稅化と加徴／絹交易による私利追求／公文書行政からの背反／国内慣行の無視／ 正税支出の不正／過大な百姓の使役／請願受理の忌避／子弟郎等らの暴力的収奪／ 太政官符の未施行／守元命の停任と良吏への交替／元命の「都」への指向／目代 国守の代官／ 子弟郎等と頼方への非難／郡司・百姓の公門上訴／百姓／郡司／国司「収奪」の構造／ 「検田」の在り方／「解文」と荘園領主の時代／「尾張国解文」写本について／伝西方寺藏本の系統／ 「尾張国解文」研究の意義	

第三節 国司支配の諸相	568
大江匡衡と赤染衛門／尾張国での大江匡衡と赤染衛門／京での国司／五節舞姫の奉仕	
第九章 中世に向かう尾張・三河	583
第一節 荘園社会の諸相	584
荘園の成立と荘園整理令／丹羽郡司一族の荘園寄進／三河守藤原保相と志貴荘／その後の志貴荘／三河守源経相と長山荘／尾張の荘園／三河の荘園／尾張・三河の荘園の特質／	
コラム 三河国司源有政と紀伊国木本荘	
第二節 摂関政治から院政の時代	612
時代の扉／摂関全盛期の尾張・三河／兵らの私闘／受領死去の間隙／国から京へ／豪族伴氏の転身／熱田大宮司藤原氏の登場／尾張守俊綱／院近臣藤原顕長と地域勢力／院政時代の諸勢力／院政期の条里 安食荘の成立／康治二年検注帳案の概要／坪付注文の例／尾張国の在庁官人／武士と寺社と民衆／平安末期の緊張／地域社会の達成と主張	
第三節 窯業生産にみる中世への動き	664
平安後期の様相／院御所・御堂の建築と地方産瓦／尾張・三河の窯業生産の変化／尾張での瓷器窯から山茶碗窯へ／初期山茶碗生産窯の特徴／仏具・瓦類など特殊品の生産／尾張産瓦の供給元と背景／その後の瓦生産と供給先の変化／中世陶器生産への展開／沿岸部での土器製塩の変化	
第十章 地域社会の生活と文化	687
第一節 草薙剣とヤマトタケル伝承	688
記紀神話伝承／神話・伝承と草薙剣／草薙剣とヤマトタケル伝承／ヤマトタケル伝承と倭建命の墓／尾張国風土記と草薙剣の性格／尾張国熱田太神宮縁記の性格／縁記にみえるヤマトタケル伝承／建稲種公とミヤズヒメ／草薙剣の盗難と返却／三種の神器と草薙剣／熱田社の神剣	
第二節 熱田社の展開と神仏習合	710
熱田社の展開／神仏習合と神宮寺	
第三節 尾張国・三河国と式内社・神戸・大嘗祭	716
式内社／尾張国の式内社／尾張国の式内社名の由来／氷上姉子社と吾蔓社／三河国の式内社／神階制／尾張・三河両国の神階授与／尾張・三河両国の封戸／尾張・三河両国と大嘗祭／国司の神拝と熱田社・大宮司／尾張・三河両国の一宮と惣社	
第四節 仏教の導入と普及	746
地域社会と仏教文化／平地の寺院と山寺／豪族と仏教／尾張僧都賢環らの活躍／道場法師とその孫女／民衆と仏教／十世紀までの仏像	
第五節 摂関期の仏教	760
地方仏教推進者の変化／国司の仏教活動／庶民の「風俗」／異形の牛をめぐる／住民の開明的精神／古代寺院の消長／寺院の諸相	
第六節 院政期の仏教と地域社会	772
僧侶の都鄙往還／仏教思想の動向／三河国司藤原顕長の壺／院政期の仏像／地域寺院の形成／仏教を支えた地域住民／三河国普門寺／風雲急	
第十一章 条里と尾張・三河の条里遺構	787
第一節 律令の土地政策と条里プラン	788
律令の土地制度／条里プランと班田図／条里制と条里プラン／尾張国の班田図	
第二節 尾張国・三河国の条里プラン	802
水野時二による尾張の条里研究／尾張国の条里呼称法／律令の条里プラン／国図の条里プラン／荘園の条里プラン	
第三節 尾張・三河の条里地割	822
尾張・三河の平野の地形／地籍図と旧版大縮尺図／島畑の成立と展開／尾張の条里地割分布／小条里地割区と開拓単位／歌川学による三河の条里研究／三河の条里地割と地籍図／三河の条里地割分布／尾張・三河の条里の特性	
あとがき	859
執筆分担	861
引用・参考文献一覧	862
掲載図版一覧	876
資料提供者及び協力者	890
愛知県史編さん関係者名簿	892